

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成29年7月20日(2017.7.20)

【公開番号】特開2016-50667(P2016-50667A)

【公開日】平成28年4月11日(2016.4.11)

【年通号数】公開・登録公報2016-022

【出願番号】特願2014-178172(P2014-178172)

【国際特許分類】

F 1 6 C 33/76 (2006.01)

F 1 6 C 19/18 (2006.01)

F 1 6 C 41/00 (2006.01)

B 6 0 B 35/02 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/76 A

F 1 6 C 19/18

F 1 6 C 41/00

B 6 0 B 35/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成29年6月7日(2017.6.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

[ 実施の形態の第 3 例 ]

本発明の実施の形態の第 3 例に就いて、図 5 を参照しつつ説明する。本例の場合には、上述した実施の形態の第 2 例と同様の補助リップ 4 9 a を備えたシール材 2 6 b を使用しているが、このシール材 2 6 b を構成する薄肉延長部 5 4 を、センサ保持部材 2 8 b の一部に接触させている。即ち、本例の場合には、このセンサ保持部材 2 8 b を構成する円筒部 3 0 b の軸方向外端部に、軸方向外側に向かう程径方向内方に向けて折れ曲がった折れ曲がり部 5 6 を形成し、この折れ曲がり部 5 6 の内周面に対し、前記薄肉延長部 5 4 の先端縁（外周縁）を全周に互に接触させている。具体的には、前記センサ保持部材 2 8 b を、外輪 2 の軸方向内端部に内嵌固定する際に、前記折れ曲がり部 5 6 により前記薄肉延長部 5 4 を軸方向外方に弾性変形させ、この薄肉延長部 5 4 を弾性復元させる事で、この薄肉延長部 5 4 の先端縁を、前記折れ曲がり部 5 6 の内周面に接触させている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

- 1、1 a 車輪支持用転がり軸受ユニット
- 2 外輪
- 3 ハブ
- 4 転動体
- 5 ナックル

- 6 静止側フランジ
- 7 a、7 b 外輪軌道
- 8 a、8 b 内輪軌道
- 9 回転側フランジ
- 10 ハブ本体
- 11 内輪
- 12 小径段部
- 13 かしめ部
- 14 肩部
- 15 エンコーダ
- 16 支持環
- 17 エンコーダ本体
- 18 シールリング
- 19 内部空間
- 20、20 a キャップ（内側キャップ）
- 21、21 a 嵌合筒部
- 22、22 a 底板部
- 23、23 a 第一嵌合面
- 24、24 a 本体筒部
- 25、25 a 非接触筒部
- 26、26 a、26 b シール材
- 27、27 a リップ本体
- 28、28 a、28 b センサ保持部材（外側キャップ）
- 29 センサ
- 30、30 a、30 b 円筒部
- 31、31 a 底部
- 32、32 a 第二嵌合面
- 33、33 a 外向フランジ部
- 34、34 a 貫通孔
- 35、35 a 取付孔
- 36、36 a ナット
- 37 保持器
- 38 支持筒部
- 39 円輪部
- 40 芯金
- 41 弾性材
- 42 部分円すい筒部
- 43 小径円筒部
- 44 外径側平板部
- 45 筒状部
- 46 中間平板部
- 47 傾斜板部
- 48 中央平板部
- 49、49 a 補助リップ
- 50 シール面
- 51 逃げ凹溝
- 52 面取り部
- 53 水抜き孔
- 54 薄肉延長部
- 55 取付ボルト

# 5 6 折れ曲がり部

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】

